

コンピテンスの領域ごとの科目達成レベル

レベル (達成度)	Advanced	Applied	Basic			
I. 倫理観とプロフェッショナリズム						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。	診療の場での医師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である	医師としての態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である	基盤となる態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
II. コミュニケーション						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。	診療の一部として実践できることが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
III. 医学および関連領域の知識と応用						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。	診療の場で問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である	知識修得・応用の態度、習慣を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
IV. 診療の実践						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
患者に対して思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な診療を実施できる。	診療の一部として実践できることが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
V. 社会と医療						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
VI. 科学的探究						
千葉大学医学部学生は、卒業時に	A	B	C	D	E	F
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	計画された研究の見学、基礎となる技術を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない

科目達成レベルマトリックス

	学年	コース・ユニット名	I																
			普通教育科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	医療プロフェッショナリズムI	医療プロフェッショナリズムI	医療プロフェッショナリズムI	医学英語	正常構造と機能	正常構造と機能	生命科学特論・研究I	医療と社会	医療と社会
			情報リテラシー	統合数学	オロジマン・バイ	医学生物学	生物統計	AI数理科学入門	基礎化学	導入PBLテュー	医学入門I	医学入門II	医学英語I	遺伝分子医学	組織学	ベシカレーション	地域医療学	異文化コミュニケーション	
		ナンバリング・水準コード	GD101	100	105	106	107	108	109	111	112-113	121	101	131	144	291	161	401	
I. 倫理観とプロフェッショナリズム																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。																			
卒業生は:																			
1	広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。		C	E	E	E	E	E	F	C	C	C	D	F	E	E	C	C	
2	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。		C	F	C	E	F	D	F	C	C	C	D	E	D	E	C	C	
3	法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。		C	E	C	E	E	E	F	C	C	C	E	F	E	E	C	C	
4	個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。		C	E	F	E	E	E	F	E	C	C	E	F	E	E	C	C	
5	チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローアップを発揮し、多職種連携を実践できる。		C	E	C	F	E	F	F	C	E	C	E	F	F	E	C	C	
6	常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。		D	E	C	F	E	E	F	C	C	C	E	F	E	E	C	C	
7	他者に対して指導や支援を求めことができ、自らも指導や支援をすることができる。		C	E	C	F	E	C	F	C	C	C	E	F	E	E	C	C	
8	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。		C	E	C	E	E	C	E	C	C	C	D	F	E	E	C	C	
II. コミュニケーション																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。																			
卒業生は:																			
1	個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。		E	E	C	E	D	E	F	C	C	C	D	D	E	E	C	C	
2	他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。		C	E	C	D	D	C	F	C	C	C	C	F	E	E	C	C	
3	様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。		C	E	E	D	D	C	F	C	E	E	D	E	E	E	C	C	
III. 医学および関連領域の知識と応用																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
医学・医療の基礎となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。																			
1	人体の構造と機能		F	F	D	D	F	F	D	E	E	E	E	D	D	E	E	E	
2	発達、成長、加齢、死		F	F	D	D	F	F	D	E	E	E	E	F	D	E	D	E	
3	心理と行動		D	F	E	E	F	F	F	E	E	D	E	F	F	E	D	E	
4	病因と病態		F	E	E	E	F	F	F	E	E	E	E	D	E	E	E	E	
5	診断		F	E	E	F	E	E	F	E	E	E	E	D	E	E	E	E	
6	治療、予防		F	E	E	F	E	E	F	E	E	E	E	D	E	E	E	E	
7	疫学、統計		D	D	E	F	C	C	F	E	E	E	F	F	F	E	E	E	
8	保健・医療・福祉制度		F	E	F	F	F	F	F	E	E	E	F	F	F	E	C	E	
9	医療関連法規		E	F	F	F	F	F	F	E	E	F	F	F	F	E	D	E	
10	医療経済		F	E	F	F	F	F	F	E	E	F	F	F	F	E	D	E	
11	情報・科学技術		C	D	E	E	F	C	F	E	E	F	E	D	E	E	D	E	
12	医学・医療英語		F	E	F	E	F	F	F	E	E	F	C	F	E	E	F	C	
IV. 診療の実践																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。																			
卒業生は:																			
1	医療面接を実施できる。		F	F	F	F	F	F	F	F	E	C	C	F	F	E	E	E	
2	身体診察を実施できる。		F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	
3	基本的臨床手技を実施できる。		F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	
4	感染対策を実施できる。		F	F	F	E	F	F	F	F	E	F	E	F	F	E	E	E	
5	臨床推論により診断ができる。		F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	
6	検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。		F	F	F	F	F	E	F	F	E	F	F	F	E	E	E	E	
7	治療計画を提案できる。		F	F	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	E	E	E	
8	医療文書を作成できる。		F	F	F	F	F	F	F	F	C	F	F	F	F	E	F	E	
9	状況に即したプレゼンテーションができる。		F	E	F	E	F	F	F	C	D	D	D	F	F	B	C	E	
10	Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。		E	F	F	F	F	E	F	F	E	F	D	F	F	E	E	E	
11	Shared decision making (SDM) を実践できる。		E	F	F	F	F	F	F	F	E	E	F	F	F	E	E	E	
12	情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。		D	F	F	E	F	C	F	F	E	E	E	F	F	E	E	E	
V. 社会と医療																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。																			
卒業生は:																			
1	健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点から、患者・生活者を理解できる。		F	F	F	F	F	F	F	E	E	D	E	F	F	E	C	E	
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。		F	F	F	F	F	F	F	E	E	D	F	F	F	E	C	E	
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。		F	F	F	F	F	E	F	E	E	D	F	F	F	E	C	E	
4	個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。		E	E	F	E	F	E	F	C	E	D	E	E	F	E	C	E	
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。		F	E	F	F	F	F	F	E	E	D	E	F	F	E	C	C	
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。		F	E	F	E	F	D	F	E	E	D	E	F	F	E	D	E	
VI. 科学的探究																			
千葉大学医学部学生は、卒業時に																			
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。																			
卒業生は:																			
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。		E	E	E	D	D	C	E	E	E	F	D	D	E	B	E	E	
2	新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。		D	E	F	D	E	D	E	D	E	F	D	D	E	E	E	E	
3	学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。		E	E	F	E	E	E	F	E	F	E	F	F	F	E	E	E	
4	自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。		D	E	F	E	E	E	C	E	F	E	F	F	F	E	E	E	

図 3

科目達成レベルマトリックス

学年		2													
コース・ユニット名	医学英語	医療プロフェッショナリズムⅡ	医療プロフェッショナリズムⅡ	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	正常構造と機能	病態と診療Ⅰ	病態と診療Ⅰ
		医学英語Ⅱ	生命倫理演習	(チーム医療Ⅱ) (IPEⅡ)	(生化学・タンパク)	(生化学・栄養)	肉眼解剖学	発生学	神経科学	生理学	行動科学	免疫学	微生物学入門	薬理学総論	
ナンバリング・水準コード		201	211	221	132	132	142	142	145	133	134	151	254	232	
I. 倫理観とプロフェッショナリズム															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。															
卒業生は:															
1	広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。	D	B	C	E	E	E	C	F	E	D	E	E	D	
2	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	D	B	C	E	C	C	C	D	E	D	E	D	D	
3	法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。	E	B	C	C	C	C	C	D	E	D	E	D	D	
4	個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	E	B	C	F	E	C	C	E	F	D	F	E	E	
5	チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローシップを発揮して、多職種連携を実践できる。	E	E	C	F	C	C	C	F	F	E	E	E	E	
6	常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。	E	C	C	F	E	C	C	E	E	D	F	E	D	
7	他者に対して指導や支援を求めることができ、自らも指導や支援をすることができる。	E	D	C	E	C	C	C	E	F	E	F	E	E	
8	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	D	C	C	F	E	C	C	E	D	E	E	E	E	
II. コミュニケーション															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。															
卒業生は:															
1	個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。	D	D	C	F	C	C	C	C	F	F	D	F	E	E
2	他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。	C	D	C	F	C	C	C	E	F	E	E	E	E	
3	様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。	D	E	C	F	F	C	C	E	D	E	E	E	E	
III. 医学および関連領域の知識と応用															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
医学・医療の基礎となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。															
1	人体の構造と機能	D	E	E	D	D	C	D	D	D	D	D	D	D	
2	発達、成長、加齢、死	E	C	C	E	F	C	D	D	D	D	E	D	D	
3	心理と行動	E	D	C	E	F	E	F	E	D	D	F	E	E	
4	病因と病態	D	E	C	D	D	D	E	E	D	D	D	D	D	
5	診断	E	E	E	F	F	E	E	E	D	D	D	D	E	
6	治療、予防	E	E	C	D	F	E	E	E	D	D	D	D	D	
7	疫学、統計	F	E	C	F	F	F	E	F	D	E	F	E	D	
8	保健・医療・福祉制度	F	C	C	F	F	F	E	F	F	E	F	D	E	
9	医療関連法規	F	C	C	F	F	E	E	F	F	E	F	D	D	
10	医療経済	F	E	C	F	F	E	F	F	F	E	F	E	E	
11	情報・科学技術	E	E	F	E	D	E	F	E	E	E	D	E	E	
12	医学・医療英語	C	F	D	F	E	D	E	E	E	D	F	E	E	
IV. 診療の実践															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。															
卒業生は:															
1	医療面接を実施できる。	C	F	C	F	F	F	F	F	F	E	F	F	F	
2	身体診察を実施できる。	F	F	E	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	
3	基本的臨床手技を実施できる。	F	F	F	F	F	E	F	F	F	F	F	F	F	
4	感染対策を実施できる。	D	F	C	F	F	E	F	F	F	F	D	D	F	
5	臨床推論により診断ができる。	E	F	F	F	F	E	E	E	E	E	E	F	F	
6	検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	E	E	D	E	E	E	E	F	
7	治療計画を提案できる。	F	F	F	F	F	F	F	E	E	E	E	F	F	
8	医療文書を作成できる。	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	F	
9	状況に即したプレゼンテーションができる。	D	F	F	F	C	E	E	F	E	E	F	F	F	
10	Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。	D	F	F	F	F	E	F	F	D	E	F	F	F	
11	Shared decision making (SDM) を実践できる。	F	E	D	F	C	E	E	F	F	E	F	F	F	
12	情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。	D	F	E	F	F	F	F	F	F	E	F	E	F	
V. 社会と医療															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。															
卒業生は:															
1	健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点から、患者・生活者を理解できる。	E	C	C	F	F	F	D	F	D	F	F	F	E	
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。	F	C	C	F	F	F	F	F	E	E	F	F	E	
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。	E	C	C	F	F	F	D	F	E	E	F	F	E	
4	個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。	E	C	C	F	C	F	E	F	E	D	F	F	E	
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。	E	C	D	F	F	F	E	F	E	E	F	F	E	
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。	E	C	C	F	F	F	E	F	E	E	F	F	E	
VI. 科学的探究															
千葉大学医学部学生は、卒業時に															
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。															
卒業生は:															
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。	D	F	F	D	D	D	E	E	D	E	D	E	E	
2	新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。	D	E	F	E	D	E	E	E	D	E	E	F	E	
3	学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。	E	F	F	F	F	F	F	F	D	E	E	F	E	
4	自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。	E	F	F	F	F	F	F	F	D	E	E	F	E	

図 3

科目達成レベルマトリックス

		3											
学年	コース・ユニット名	医学英語	医療プロフェッショナリズムⅢ	医療プロフェッショナリズムⅢ	病態と診療Ⅰ	生命科学特論・研究Ⅰ	生命科学特論・研究Ⅰ	生命科学特論・研究Ⅰ	生命科学特論・研究Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ
		医学英語Ⅲ	習医医師見習い体験学	(チームP.EⅢ)	病理学総論	アスカライドシップ	基礎医学ゼミ	臨床イノベーション先	臨床イノベーション先	病理学各論	統合臨床薬理学	統合臨床微生物学	臨床病態治療学Ⅰ
ナンバリング・水準コード		301	311	321	241	391	392	092	092	242	331	351	272
I. 倫理観とプロフェッショナリズム													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。													
卒業生は:													
1	広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。	C	B	C	F	E	C	E	E	F	D	E	D
2	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	D	C	C	F	E	C	E	E	F	D	E	D
3	法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。	E	C	C	F	E	C	E	E	F	D	E	D
4	個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	E	B	C	F	E	E	E	E	F	E	E	D
5	チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローアップを発揮して、多職種連携を実践できる。	E	B	C	F	E	E	E	E	F	E	E	D
6	常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。	E	C	C	F	E	E	E	E	F	D	E	D
7	他者に対して指導や支援を求めことができ、自らも指導や支援をすることができる。	E	C	C	F	E	C	E	E	F	E	E	D
8	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	D	B	C	F	E	C	E	E	F	E	F	D
II. コミュニケーション													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。													
卒業生は:													
1	個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。	D	B	C	F	E	E	E	E	F	E	F	F
2	他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。	C	B	C	F	E	E	E	E	F	E	E	E
3	様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。	C	E	C	F	E	D	E	E	F	E	F	F
III. 医学および関連領域の知識と応用													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。													
卒業生は:													
1	人体の構造と機能	D	E	E	C	E	E	E	E	C	D	D	C
2	発達、成長、加齢、死	D	E	E	C	E	E	E	E	C	E	D	F
3	心理と行動	D	E	E	F	E	E	E	E	F	D	E	F
4	病因と病態	D	E	E	D	E	E	E	E	D	D	D	D
5	診断	D	E	F	D	E	E	E	E	D	E	D	C
6	治療、予防	D	E	E	F	E	E	E	E	D	D	D	D
7	疫学、統計	E	E	F	F	E	E	E	E	F	D	E	F
8	保健・医療・福祉制度	E	E	E	F	E	E	E	E	F	E	E	F
9	医療関連法規	F	E	E	F	E	E	E	E	F	D	E	F
10	医療経済	E	E	F	F	E	E	E	E	F	E	E	F
11	情報・科学技術	E	E	F	E	E	E	E	E	E	F	F	F
12	医学・医療英語	B	F	F	E	E	E	E	E	E	E	F	E
IV. 診療の実践													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。													
卒業生は:													
1	医療面接を実施できる。	B	F	F	F	E	E	F	F	F	F	F	F
2	身体診察を実施できる。	F	F	F	F	E	E	F	F	F	F	F	F
3	基本的臨床手技を実施できる。	F	F	F	F	E	E	F	F	F	F	F	F
4	感染対策を実施できる。	D	E	F	F	E	E	F	F	F	F	C	F
5	臨床推論により診断ができる。	D	E	F	F	E	E	F	F	F	F	D	F
6	検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。	D	F	F	D	E	E	F	F	D	F	D	D
7	治療計画を提案できる。	D	D	D	F	E	E	F	F	F	F	D	F
8	医療文書を作成できる。	E	D	E	F	E	D	F	F	F	F	F	F
9	状況に即したプレゼンテーションができる。	C	D	E	F	E	D	E	E	F	F	F	F
10	Evidence-based medicine (EBM)を実践できる。	C	E	F	F	E	F	F	F	F	F	E	F
11	Shared decision making (SDM)を実践できる。	F	D	C	F	E	F	F	F	F	F	E	F
12	情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。	D	E	F	F	E	D	F	F	F	F	F	E
V. 社会と医療													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。													
卒業生は:													
1	健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH)の観点から、患者・生活者を理解できる。	D	D	C	F	E	E	F	F	F	E	F	F
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。	F	D	C	F	E	E	F	F	F	E	F	F
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。	E	D	C	F	E	E	F	F	F	E	E	F
4	個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。	E	D	C	F	E	E	F	F	F	E	F	F
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。	E	D	C	F	E	E	F	F	F	E	F	F
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。	E	D	C	F	E	E	F	F	F	E	F	F
VI. 科学的探究													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。													
卒業生は:													
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。	D	E	F	D	B	D	D	D	D	E	D	E
2	新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。	D	E	F	E	B	D	D	D	E	E	D	F
3	学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。	E	F	F	F	B	D	E	E	F	E	E	F
4	自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。	E	F	F	F	B	D	E	E	F	E	F	D

図3

科目達成レベルマトリックス

		3											
学年	コース・ユニット名	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ
		臨床循環器治療学Ⅰ	臨床呼吸器治療学Ⅰ	老年内科分必・治療学Ⅰ	臨床原病治療学Ⅰ	臨床血液病治療学Ⅰ	臨床精神病・神経治療学Ⅰ	臨床乳房生床・産科治療学Ⅰ	臨床腎・泌尿器治療学Ⅰ	臨床遺伝病検査・臨床床Ⅰ	臨床運動器治療学Ⅰ	臨床入門Ⅰ	臨床Iテュートリア
ナンバリング・水準コード		272	272	272	272	272	272	272	272	272	272	372	373
I. 倫理観とプロフェッショナリズム													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。													
卒業生は:													
1	広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。	C	E	D	E	B	D	F	C	B	C	F	C
2	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	C	E	D	E	C	D	F	C	B	C	F	C
3	法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。	C	D	E	E	C	E	F	C	B	C	F	C
4	個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	C	E	D	E	B	E	F	C	C	C	C	C
5	チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローシップを発揮して、多職種連携を実践できる。	C	E	E	E	B	E	F	C	C	C	B	C
6	常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。	C	E	D	E	C	E	F	C	C	C	B	C
7	他者に対して指導や支援を求めことができ、自らも指導や支援をすることができる。	C	E	D	E	B	E	F	C	C	C	C	C
8	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	C	E	C	E	C	E	F	C	C	C	B	C
II. コミュニケーション													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。													
卒業生は:													
1	個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。	C	E	E	E	C	E	F	C	C	C	B	C
2	他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。	C	E	D	E	C	B	F	B	C	C	B	C
3	様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。	C	E	C	E	C	E	F	C	C	C	B	C
III. 医学および関連領域の知識と応用													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。													
1	人体の構造と機能	C	D	B	D	D	D	D	C	B	B	F	C
2	発達、成長、加齢、死	C	E	B	E	D	D	D	C	B	B	F	C
3	心理と行動	C	E	C	E	E	D	F	C	C	C	F	C
4	病因と病態	C	D	B	B	D	D	D	C	C	B	B	C
5	診断	C	D	B	B	D	D	D	C	B	B	F	C
6	治療、予防	C	E	B	B	D	D	B	C	B	B	B	C
7	疫学、統計	C	E	C	C	E	D	D	C	C	C	C	C
8	保健・医療・福祉制度	C	E	C	C	E	E	F	C	C	C	C	C
9	医療関連法規	C	E	C	E	E	E	F	C	B	C	D	C
10	医療経済	C	E	C	E	E	E	F	C	C	C	C	C
11	情報・科学技術	C	E	C	E	E	D	F	C	B	C	C	C
12	医学・医療英語	C	E	C	E	E	E	F	C	B	C	F	C
IV. 診療の実践													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。													
卒業生は:													
1	医療面接を実施できる。	D	F	D	E	C	D	F	C	C	F	C	C
2	身体診察を実施できる。	D	F	C	E	C	C	C	C	C	E	F	C
3	基本的臨床手技を実施できる。	D	F	D	E	C	D	C	C	C	F	C	C
4	感染対策を実施できる。	D	E	E	C	C	C	F	C	C	F	B	C
5	臨床推論により診断ができる。	D	D	C	C	C	D	F	C	C	C	C	C
6	検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。	D	E	C	C	C	D	D	C	C	C	C	C
7	治療計画を提案できる。	D	E	C	C	C	D	D	C	C	C	C	C
8	医療文書を作成できる。	D	F	E	C	E	E	C	C	C	F	F	C
9	状況に即したプレゼンテーションができる。	D	E	D	C	C	E	F	C	C	E	C	C
10	Evidence-based medicine (EBM)を実践できる。	C	E	C	C	C	D	D	C	C	D	C	C
11	Shared decision making (SDM)を実践できる。	C	E	D	C	C	D	D	C	C	D	C	C
12	情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。	C	E	D	C	C	D	F	C	C	C	C	C
V. 社会と医療													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。													
卒業生は:													
1	健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health: SDH)の観点から、患者・生活者を理解できる。	D	E	C	E	E	D	F	C	C	C	C	C
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。	D	E	D	E	E	E	F	C	C	C	C	C
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。	D	E	C	E	E	E	F	C	C	C	C	C
4	個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。	D	E	D	E	E	D	F	C	C	C	C	C
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。	D	E	D	E	E	D	F	C	C	C	F	C
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。	D	E	D	E	E	D	F	C	C	C	F	C
VI. 科学的探究													
千葉大学医学部学生は、卒業時に													
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。													
卒業生は:													
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。	D	E	B	C	E	D	F	D	C	C	F	E
2	新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。	D	E	C	C	E	E	F	D	B	C	F	E
3	学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。	D	E	D	C	E	E	F	D	C	C	F	E
4	自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。	D	E	E	E	E	E	F	D	B	C	F	E

図3

科目達成レベルマトリックス

		4												
学年	コース・ユニット名	医療と社会	医療と社会	医療と社会	医療と社会	医療プロフェッショナリズムⅣ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ
		衛生学	公衆衛生学	法医学	医療経済情報学	(チーム医療Ⅳ)	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ	臨床病態治療学Ⅱ
ナンバリング・水準コード		261	262	263	264	322	273	273	273	273	273	273	273	273
I. 倫理観とプロフェッショナリズム														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。														
卒業生は:														
1	広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。	E	F	C	D	B	C	C	D	D	C	C	E	C
2	倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	E	F	C	C	B	C	C	D	D	C	B	E	C
3	法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。	D	D	B	D	B	C	C	D	D	C	B	D	C
4	個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	E	F	C	D	B	C	C	D	E	C	B	E	C
5	チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローアップを発揮して、多職種連携を実践できる。	E	F	C	D	B	C	C	D	D	C	B	C	C
6	常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。	E	F	C	F	B	C	C	D	D	C	B	E	C
7	他者に対して指導や支援を求めることができ、自らも指導や支援をすることができる。	E	F	C	D	B	C	C	D	E	C	C	E	C
8	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	E	F	E	F	B	C	C	D	E	C	C	E	C
II. コミュニケーション														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。														
卒業生は:														
1	個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。	F	F	C	D	B	C	C	D	E	C	B	C	C
2	他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。	F	F	D	C	B	C	C	D	D	C	B	B	C
3	様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。	E	F	D	D	B	C	C	D	C	C	C	B	C
III. 医学および関連領域の知識と応用														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
医学・医療の基盤となつている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。														
卒業生は:														
1	人体の構造と機能	D	F	C	F	B	B	D	C	D	D	B	B	C
2	発達、成長、加齢、死	F	F	C	E	B	B	D	C	D	D	B	B	C
3	心理と行動	E	F	F	F	B	B	F	C	D	D	C	C	C
4	病因と病態	D	D	C	F	B	B	C	C	C	D	B	B	C
5	診断	D	F	C	F	C	C	B	C	C	D	B	B	C
6	治療、予防	D	F	E	F	C	C	B	C	C	D	B	B	C
7	疫学、統計	D	D	F	D	E	C	C	B	C	E	B	E	C
8	保健・医療・福祉制度	D	D	E	D	C	C	C	D	D	E	C	C	C
9	医療関連法規	D	D	C	D	D	C	C	D	D	D	B	D	C
10	医療経済	E	F	F	B	D	C	D	D	E	C	E	C	C
11	情報・科学技術	D	F	F	B	D	C	C	B	C	E	C	C	C
12	医学・医療英語	E	F	F	F	F	C	C	B	E	E	C	E	C
IV. 診療の実践														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。														
卒業生は:														
1	医療面接を実施できる。	E	F	F	F	B	C	F	C	F	C	B	E	C
2	身体診察を実施できる。	E	F	F	F	F	C	F	C	F	C	C	E	C
3	基本的臨床手技を実施できる。	E	F	F	F	F	C	F	C	F	C	C	E	C
4	感染対策を実施できる。	D	E	F	F	F	C	C	C	F	C	B	E	C
5	臨床推論により診断ができる。	E	F	F	E	F	C	C	C	E	C	B	B	C
6	検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。	E	F	E	F	E	C	C	D	C	C	B	D	C
7	治療計画を提案できる。	E	F	F	F	B	C	C	C	E	C	B	B	C
8	医療文書を作成できる。	D	F	C	D	C	C	F	D	F	E	C	E	C
9	状況に即したプレゼンテーションができる。	D	F	E	F	C	C	C	F	E	C	D	D	C
10	Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。	D	D	E	F	C	C	C	E	D	C	D	C	C
11	Shared decision making (SDM) を実践できる。	E	F	F	F	C	C	C	C	E	D	C	E	C
12	情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。	E	F	F	F	C	C	C	E	C	C	C	D	C
V. 社会と医療														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。														
卒業生は:														
1	健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点から、患者・生活者を理解できる。	D	D	F	E	C	D	C	C	E	D	C	F	C
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。	D	D	E	D	B	D	C	C	E	D	C	F	C
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。	D	D	F	F	B	D	C	C	E	D	C	E	C
4	個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。	D	F	F	F	B	D	C	C	E	D	C	E	C
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。	D	D	D	D	C	D	C	F	D	C	F	C	C
6	広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。	D	D	D	D	B	D	C	C	E	D	C	F	C
VI. 科学的探究														
千葉大学医学部学生は、卒業時に														
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。														
卒業生は:														
1	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。	E	E	D	E	F	B	C	D	E	D	C	F	C
2	新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。	E	F	F	E	F	B	C	D	D	D	B	F	C
3	学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。	E	F	E	E	F	C	C	D	D	E	C	F	C
4	自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。	E	F	E	E	F	B	F	B	F	E	B	F	C

図3

科目達成レベルマトリックス

	学年	コース・ユニット名	4					4-5				5-6	6			
			病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	病態と診療Ⅱ	生命科学特論・研究Ⅱ	生命科学特論・研究Ⅱ	臨床医学実習	臨床医学実習	臨床医学実習	臨床医学実習	臨床医学実習	臨床医学実習	
			ピリ腫瘍病内療科・療リ学Ⅱ	臨床皮膚病・形成療学Ⅱ	臨床入門Ⅱ	CCベーシック	臨床テュートリア	生命科学特論・研究Ⅱ 【アドバンスト】 「選択科目」 スカラシップ・アドバンスト 「選択科目」	医学英語アドバン	臨床実習Ⅰ	医療安全WS	シヨナリズムWS	医療安全セミナー	臨床実習Ⅱ	ブラスバイオエクト	地域医療実習
		ナンバリング・水準コード	273	273	373	373	374	091	001	481	481	481	481	482	482	483
I. 倫理観とプロフェッショナリズム																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
責任をもって医学・医療を実践するために以下の行動ができる。																
卒業生は:																
1		広い視野を持ち、豊かな人間性を涵養できる。	C	D	F	C	B	E	C	A	B	B	C	A	C	F
2		倫理的問題を理解し、倫理的原則に基づいて行動できる。	C	D	F	C	B	E	D	A	C	B	E	A	C	F
3		法的規範を遵守し、行動に責任を持つことができる。	C	D	F	C	B	E	D	A	B	B	D	A	C	F
4		個人の尊厳を尊重し、心理・社会的要因と多様性を理解し、利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。	C	D	B	C	B	E	E	A	C	B	E	A	C	E
5		チームの目標を達成するために、リーダーシップやフォローアップを発揮して、多職種連携を実践できる。	C	D	B	C	B	E	E	A	C	B	D	A	E	E
6		常に自己の心身と社会的状態を評価し、良好な状態(ウェルビーイング)を保つことができる。	C	D	B	B	B	E	E	A	E	B	E	A	C	F
7		他者に対して指導や支援を求めることができ、自らも指導や支援をすることができる。	C	D	C	C	B	E	E	A	E	B	D	A	E	E
8		自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる。	C	D	B	C	B	E	C	A	D	B	C	A	C	E
II. コミュニケーション																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
良好な人間関係を構築し、情報を適切に取り扱い、わかりやすく伝えるために、以下の行動ができる。																
卒業生は:																
1		個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴し、共感、理解、支持的態度を示し、信頼関係を築くことができる。	C	D	B	C	B	E	D	A	C	B	D	A	E	F
2		他者やそれを取り巻く状況に配慮しながら、適切な方法で、必要な情報収集や情報伝達を行うことができる。	C	D	B	C	B	E	C	A	F	B	C	A	E	F
3		様々なメディアを活用して適切に情報を収集し、吟味し、発信することができる。	C	D	B	C	B	E	C	A	F	F	E	A	C	D
III. 医学および関連領域の知識と応用																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。																
1		人体の構造と機能	B	D	F	E	B	E	C	A	F	F	F	A	E	F
2		発達、成長、加齢、死	B	D	F	E	B	E	C	A	F	F	D	A	E	F
3		心理と行動	B	D	F	E	B	E	B	A	C	F	D	A	E	F
4		病因と病態	B	D	B	E	B	E	B	A	E	F	F	A	E	F
5		診断	B	D	F	C	B	E	B	A	E	F	F	A	E	F
6		治療、予防	B	D	B	C	B	E	B	A	E	F	F	A	E	E
7		疫学、統計	B	D	C	C	B	E	E	A	D	F	E	A	E	D
8		保健・医療・福祉制度	D	D	C	B	B	E	E	A	B	F	D	A	E	D
9		医療関連法規	D	D	D	C	B	E	F	A	B	F	B	A	E	E
10		医療経済	D	D	C	C	B	E	E	A	D	E	D	A	E	E
11		情報・科学技術	C	D	C	C	B	E	E	A	C	F	D	A	E	E
12		医学・医療英語	C	D	F	E	B	E	B	A	E	F	F	A	E	F
IV. 診療の実践																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。																
卒業生は:																
1		医療面接を実施できる。	F	D	C	C	B	E	B	A	F	F	F	A	E	F
2		身体診察を実施できる。	F	D	F	C	C	E	B	A	F	F	F	A	E	F
3		基本的臨床手技を実施できる。	F	D	C	B	C	E	F	A	F	F	F	A	E	F
4		感染対策を実施できる。	F	D	B	B	C	E	D	A	F	F	F	A	E	E
5		臨床推論により診断ができる。	C	D	C	B	B	E	B	A	F	F	F	A	E	F
6		検査の必要性を判断し、検査結果を解釈できる。	C	D	C	B	B	E	C	A	F	F	F	A	E	F
7		治療計画を提案できる。	D	D	C	C	B	E	C	A	F	F	F	A	E	F
8		医療文書を作成できる。	F	D	F	B	C	E	E	A	F	F	F	A	E	F
9		状況に即したプレゼンテーションができる。	F	D	C	B	B	E	C	A	F	F	F	A	E	F
10		Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。	F	D	B	C	B	E	C	A	F	F	F	A	E	D
11		Shared decision making (SDM) を実践できる。	F	D	B	C	B	E	F	A	F	F	F	A	E	C
12		情報・科学技術を活用した診療を必要に応じて実践できる。	D	D	C	C	B	E	C	A	F	F	F	A	E	C
V. 社会と医療																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。																
卒業生は:																
1		健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) の観点から、患者・生活者を理解できる。	F	D	C	C	B	E	C	A	D	F	D	A	E	A
2		保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。	F	D	C	C	B	E	E	A	C	F	C	A	E	A
3		患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。	F	D	C	C	B	E	E	A	E	F	D	A	E	A
4		個人の多様性を受容し、活躍することを支援できる。	F	D	C	C	B	E	C	A	E	F	E	A	E	A
5		個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。	F	D	F	C	B	E	D	A	D	F	E	A	E	A
6		広い視野から保健・医療・福祉の課題の改善に努めることができる。	F	D	F	C	B	E	E	A	D	F	E	A	C	A
VI. 科学的探究																
千葉大学医学部学生は、卒業時に																
常に探究心を持ち、未知・未解決の科学的問題の解決に向けて、以下のことができる。																
卒業生は:																
1		医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解できる。	D	D	F	E	E	A	C	A	E	F	D	A	E	E
2		新しい科学的知見について、論理的・批判的な思考ができる。	D	D	F	E	E	A	C	A	E	F	D	A	E	C
3		学術・研究活動等に参画し、自らの役割を果たすことができる。	F	D	F	E	E	A	E	E	E	F	E	E	A	C
4		自らが関与した学術的成果を口頭および文書で発表できる。	F	D	F	E	E	A	E	E	F	F	F	E	A	C